

檀信徒・霊園使用者各位に発行しています。

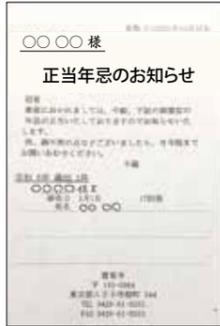
来年度に向けて



師走の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。お寺からのご報告としまして、来年より「ご法要の案内」をお送りさせていただきます。誰の何回忌なのか分からなくて、「誰の何回忌なのか分からなくて」というお声が多いので、事前に通知をし、早めにご予約していただければ幸いです。準備ができ次第、順次進めて参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

温暖化等の影響か、このところ気候の変化をより感じます。そして今年の冬は、大雪の降った平成26年の気候に似ているとか・・・（もう10年近く経つのですね）。ご葬儀などは大雪でも執り行われますので、万が一の備えとして宝泉寺でも除雪の機械を用意しました。もちろん、使わないに越したことはないのですが・・・皆さまも大雪の際には特にお気をつけてお過ごしください。

寺務長 関根



葬儀にまつわる よもやまばなし 四方山話

感染症対策が一段落した頃から、お葬式やご法事の参列者が増えてきました。有り難いことです。考えてみればコロナ以前は「家族葬」ブームで外の人を呼ばないで葬儀を行うケースが多くなってきた時でした。しかし親しい方の最後を見送りたいと思うのは当たり前のこと。それに参列者が多ければ費用負担も軽減されるのに、という話を以前書きました。

この頃はコロナ禍の影響もあって、食事などの

供応は控えめに、また参列する側も自身の体調を考慮して自己判断で、というふうになってきました。葬儀式、仏事のやり方もまた変わってきているのですね。葬儀の時の飾り方などにもずいぶん変わってきたことがあります。花祭壇の普及です。以前は白木祭壇といって、建物のカタチを模した祭壇を設けることが一般的でした。この祭壇は極楽往生した後の住まいを表現したもので、そこに供物や花を飾りました。花祭壇はこの建物部分の代わりに生花をつかっています。お花ですから様々な色を使う事ができますし、もちろんその形も自由に決めることができます。故人の好み

にそって、美しく鮮やかに表現された花祭壇は、時として見事な芸術作品に感じられるものです。お葬儀屋さんも今ではほとんどこの花祭壇を推奨しているようです。その大きな理由はやはり見送る側の満足度。決まり切ったものではなく、故人に相応しい形で見送りたい、それもまた愛情というものだと思います。もう一つの理由は、費用が変わらない割に葬儀屋さんの負担が少ないこと。じつは花祭壇の設置作業は出入りのお花屋さんの仕事。それに汚れやすい白木祭壇はメンテナンスが大変なので、あまり出し入れしたくない、というのも本音のような気がします。

霊柩車というのが減りました。火葬場へと移動するとき故人をお乗せする最後の乗り物が霊柩自動車なのですが、棺を納める部分がやはり建物を模したカタチになっています。「宮型」などと言いますね。今ではほとんどが「寝台車」になりました。黒塗りではあるものの外から見たら他の車と変わらない。移動も葬儀中だと言ったことがわからないのが人気の理由でしょう。私個人としては飾り方に関して、こうしてこれあれあしてこれと、言うことはありません。その時代に生きる人の「見送り方」が変わるのだから、前代と違うからです。しかし私が行う儀式の中身はいつでもどこでも同じです。参列者が多

くても少なくても変わりはありません。それは見栄えがどんなに変化しても、時代がどんな風になっても、葬儀の場で故人の恩を思い、その生前の徳を偲ぶ気持ち。これが最も大事だと言うことには変わりありません。そしてその心を最も丁寧に表現するものが仏教のお葬式だから

です。それぞれの飾り方に、伝統の儀式を織り交ぜて、故人の最後に相応しいお見送りができるといいですね。もちろん伝統的な白木祭壇に宮型霊柩車というのもじつはオススメです。時代を超えて行われてきた荘厳さは、なかなか素晴らしい物ですよ。

法話のコーナー

「お位牌の話」

お位牌を祀る、というのは実はアジア圏、事には中国から朝鮮半島、そして日本だけで行われているそうです。確かに以前仏教国であるミャンマーに行つたとき、お釈迦様の尊像は街中のそこかしこに祀られているのに、一緒にあるはずのお位牌はありませんでした。熱心な仏教徒である各家庭には必ずと言っていいほどお位牌があるのですが、果物やご飯が丁寧にお供えされているのに、亡くなった方のお名前を記したお位牌やそれに変わるものがないのです。現地のガイドさんに「位牌はないのか」と聞いてみたのですが、お位牌というものの存在を知りませんでした。

記した「木主（木の板に台座がついたもの）」を掲げ、「王の徳によつてこの戦を全うする」と戦の大義名分を掲げ、その象徴としたと書かれています。これがいわゆるお位牌の始まりです。時代が下つて宋の時代、皇帝が宮殿を建設するとき、先祖の霊を祀るお堂を必ず建立したそう、その中には祖霊の名前を記した木主を奉納しました。この木主は「高さ一尺二寸、厚さ一寸二分、上辺の角を削つて円形とし、円形から下四分の切り込みを入れ、下部を全体四分に削り・・・」と具体的な制作方法が決まらされていて、我々が普段目にするお位牌は概ねこのかたちが元になっています。日本には鎌倉時代に禅の教えと共に入つてきたと義堂周信禅師の「空華日用略集」に書かれています。一般民衆に定着したのは江戸時代です。

宿すもの、として扱われてきたのがわかりました。身近な方がなくなつたとき、姿は見えなくなつてしまつたけれど、その意思、在りし日の心意気、存在の大きさは変わらず、私に影響を及ぼしている、そのことを片時も忘れぬように、木片に名を記し、その人の代わりとして身近に置く。そうやって先祖代々受け継がれてきた命、今の私を形作つた父母の有り難さを感じながら毎日の生活を送るため、言ってみれば「生活の知恵」といってもいいのかもしれません。

現代では様々な形のお位牌があります。花飾りが彫られたものや、クリスタル製のものまであるそうです。どんなものであつてもお位牌を大事にすると言ふことは、先祖の有り難さ、命の尊さを大事にするということに他なりません。そういう人はきつと今を生きる人々も大事にするはずで、人は決して自分だけで生きていくことはできません。周りの人を大事にしなければ困難な世の中を無事に渡っていくことはできないのです。周りを大事にする人は周りの人に大事にされるもの。互いに尊敬し合い大事に思い合うのもまた、生きる知恵というものです。これはとても大事なことです。お仏壇、お位牌はその標識のようなものなのです。年末にあたり、しつかりお仏壇掃除をして、位牌も磨いて、気持ちよく新年を迎えたいものです。

惠海日記

えかいにつき

先日京都は南禅寺の会館にて開催された布教研修会に行つてまいりました。僭越ながら私が幹事を務めさせて頂きました。人を集めて企画をし、予定通り進行する事の難しさを痛感致しました。宝泉寺ご住職が以前に参加されていた自主研修会を我々新人たちが引き継いだ形になります。企画段階からご住職にアドバイスを頂きながら何とか無事開催まで漕ぎつけることが出来ました。

我々臨済宗の和尚さんは布教師の資格を頂いたら、巡教と言つて主に関西地方のお寺を数日かけて巡つて法話をさせて頂くことになるのですが、コロナによつてずつと延期になっていました。私は4年前に資格を頂いているのですが、それから今日まで一度も関西への巡教には出る事が叶いませんでした。皆様ご周知の通り宝泉寺ご住職は何度も巡教を経験された大ベテランでございます。そんなご住職を含めたベテランの布教師さんを3人お招きして、厳しくも暖かいご指導を頂きました。私もある程度年齢を重ねてきて、普段から「和尚さん」「先生」などと呼ばれ法話やお経、立ち居振る舞いのダメ出しをされる機会など殆ど無いというのが正直なところ。他の新人さん達も同じだった様で「ハッキ

リと教えて頂けて本当に良かった」と感動しておりました。

厳しい研修が終わつたらお待ちかねの打ち上げです。緊張感のある研修を終えた新人さん達の顔には安堵の色が見られ、お話にも花が咲きます。ベテラン布教師さん達への質問コーナーを設けたのですが、個人的にはこれがとても印象的でした。質問をするのですが、新人さんは前のめり、先輩方もそれをどつしり構えて迎えつつ。先輩の一人が「研修はぶつかり稽古だ」と称していましたが正にその通りでした。打ち上げも研修の一部だったので。普段の研修だと他の人の目を気にしてあまり突っ込んだ質問はできません。そこで尻込みするのも良くないのですがそこは人間、中々難しいものです。今回は先輩方が「もういいだろ!」というぐらい質問責めにさせて頂きました。

寺務長通信



いつもありがとうございます。寺務長の根です。

最近「お寺の「寺務長」ってどんな仕事をしているの?」とよく聞かれます。一言で申しますと、お寺に関わる全ての業務(お経は除きます)です。ご法事やご葬儀のお手伝い。四十九日法要までの準備のご案内、その他アフターフォロー。霊園管理にご納骨。お仏壇・仏具のご案内(先日も素敵なお仏壇をお檀家様宅へご納品させて頂いた頂きました!)。行事の準備、境内のお掃除等々...

檀信徒の皆様やご利用者のため、どんなことでもどうぞお気軽にお声がけください!

さて今回は、先ほどご案内しましたお寺仕事の一つ、「行事準備」の一部での出来事をご紹介します。宝泉寺では、3月のお彼岸会、7月のお盆会、11月にはお施餓鬼会、と年間3回、檀信徒様をお招きした合同法要があります。準備に関しても私もいろいろと覚えなければならぬのですが、まだまだ住職の指示が無いと不安です。寺報を読んだお

あいうえお用語辞典

{は} 般若 (はんじゃ)

すべての執着から離れ、あらゆる物事、真実を見通す見識「智慧」の事。物事を分析する知識としての「知恵」とは異なります。お悟りを得る為の6つの修行、六波羅蜜の締めくくりを「般若波羅蜜(智慧波羅蜜)」といいます。



我が輩は二ヤンである。



寒くなってきたのであまり外に出ない毎日。住職の仕事が邪魔するのが大事な日課なのだ!

令和六年 年忌表	令和五年に亡くなった人は	一周忌です
	令和四年に亡くなった人は	三回忌です
	平成三十年に亡くなった人は	七回忌です
	平成二十四年に亡くなった人は	十三回忌です
	平成二十年に亡くなった人は	十七回忌です
	平成十四年に亡くなった人は	二十三回忌です
	平成十年に亡くなった人は	二十七回忌です
	平成四年に亡くなった人は	三十三回忌です
	昭和六十三年に亡くなった人は	三十七回忌です
	昭和五十七年に亡くなった人は	四十三回忌です
昭和五十三年に亡くなった人は	四十七回忌です	
昭和五十に亡くなった人は	五十回忌です	

年忌にあたる仏様がおられましたら、ご法要を営みましょう



日々もこもこ

冬を前にタンパク質を取りたいアヒルさん 地面を掘ってミミズを探すので顔がどろどろ



LINEで直接住職と!



YouTube

Youtube 宝泉寺チャンネル!



お客様からも「住職すごいね!何でもやっちゃうんだねえ!」と言われる通り、今回も住職がお施餓鬼前の掃除にて

写真をご覧ください!なんと住職、ゴンドラに乗り観音様のお掃除を...。クレーンも自ら運転、操作し、水浸しになりながら高圧洗浄をし、観音様はピカピカに。全ては、ご参拝の方が気持ちよくお参りいただけるようにとの思いから。

こうして行事当日を迎え、皆さまの元気なお姿にお会いすることが、住職並びに私たちお寺の人間の一番の喜びです。皆さま、お寺の行事にもどうぞお気軽にご参加くださいませ。

霊園だより

早いものでもう師走を迎えなにかとお忙しとは思いますがいかがお過ごしでしょうか。今年の五月に新型コロナが5類感染症へと移行されて半年が過ぎ、マスク姿の割合も発生時以前に戻ってきているような印象を受けます。とはいえインフルエンザともまだまだ流行の兆しがありますので皆様健康にはご留意くださいませ。

例年通り管理事務所では、お花・線香を用意してお待ちしております。また、墓参時に気になった外柵のズレや目次の欠け等の修理、落ちにくい水垢掃除、墓地工事の事などありましたら無料で御見積致しますので管理事務所にお気軽にお申し付けください。末筆ではございますが益々のご健勝をお祈り申し上げます。

管理事務所 畑山(はたやま)

オススメ図書

「休宗純 狂雲集 再考」 著ご存じ休さんは室町時代の実在の臨済僧。その生き方はまさに破天荒。ご自身の境地をありのままに表現した漢詩集「狂雲集」を、今までの解釈にとらわれずに読み直すちよつとマニアックな一冊です。著者、芳澤先生の講義にも参加してきましたが、当時の生々しい休の日常が改めて感じられる、「日常生活の中の悟り」の姿が新鮮です。

芳澤勝弘 春秋社 / 11000

